

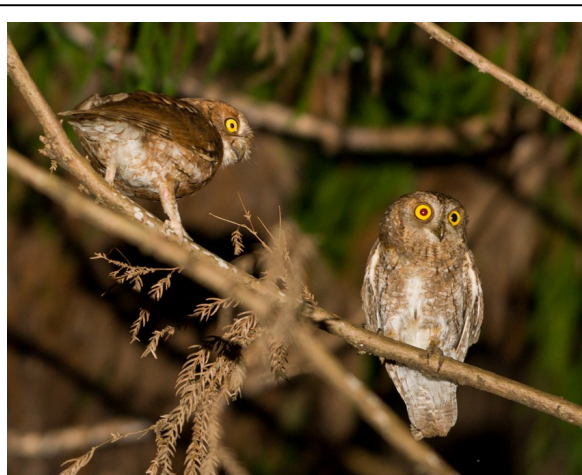
コノハズク *Otus sunia* (Hodgson)

【選定理由】

県内の山地に夏鳥として飛来するが、繁殖期の生息場所は局地的で生息数は少ない。現在の県内では、繁殖期に生息が確認できる場所は極めて限られている。近年は繁殖期の生息数だけでなく、渡りの季節の確認例も希になっており、通過個体群も大きく減少していることが推測される。

【形態】

全長 18～21cm。上面は灰褐色で黒褐色の縦斑があり、下面は汚白色で黒褐色の縦斑と細かい虫食い状の横斑がある。赤茶色味の強いタイプ（赤色型）もある。耳のような羽角があり、目の色は黄色で趾に羽毛はない。



愛知県東三河山間部, 2008年7月12日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

東三河地方の山地に飛来して繁殖するが、以前は西三河の低山でも繁殖期の記録があった。春秋の渡りの季節には、平野部を含む県内全域を通過する。

【国内の分布】

夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来して繁殖する。

【世界の分布】

ロシア沿海州から中国北東部、日本では夏鳥で、中国南部とベトナムからインドまででは留鳥。マレー半島やスマトラ島では冬鳥である。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では上部に車が通る道路や、住宅や街路灯などの人工光源がほとんどない山塊の、針広混交林または落葉広葉樹林で生息が確認されており、地形的にはかなり急峻な環境が多い。県内で確認されている営巣例は杉の大木にある樹洞で、ムカデ類や昆虫類などの小動物を捕食していた。キョッ、キョッ、キョーと聞こえる声は「仏法僧」と聞きなされ、「声のブッポウソウ」と呼ばれている。

【現在の生息状況／減少の要因】

2008年に実施した愛知県の調査で、繁殖期の生息が確認された場所は豊根村、東栄町、新城市など6地点7個体程度であった。旧鳳来町では昭和30年以前に17地点で鳴き声が聞かれたとされるが、2008年には2地点で確認されたのみである。過去には西三河の山地や豊田市の丘陵部などでも繁殖期の記録があったが、現在は東三河山間部以外での確認記録はなくなった。減少の要因として山地に敷設される交通量の多い道路、それに伴う人工光と騒音の増加が考えられる。

【保全上の留意点】

山地に車の走行が可能な道路が建設されると、走行する車と夜間の人工光によって生息する昆虫などの小動物が減少し続ける。それらを餌とし、音を頼りに狩りを行う夜行性の種は生息環境を失ってしまう。県内周辺に生息する本種の分布減少は、この構図を見事に表している。

【特記事項】

1935年（昭和10年）に、NHKが鳳来寺山からその声をラジオで実況中継したことにより、愛知県と鳳来寺山がブッポウソウの棲む場所として有名になったが、この放送をきっかけに「ブッポウソウ」と鳴く声の主が、ブッポウソウではなく本種であることが判明することになった。現在も、本種が愛知県の県鳥とされている由縁である。

本種は、県条例に基づく指定希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.90. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)